

# ダニエル書 - 第十一番

## 暗闇における預言的試練とイメージの台頭

Jeff Pippenger

2023-12-06

ダニエル書1章は第一の天使のメッセージを表し、2章は第二の天使のメッセージを表しています。預言的象徴において、第一のメッセージは神を畏れよ、第二のメッセージは神に栄光を帰せよ、そして第三のメッセージは裁きの時を指し示します。ダニエル書2章に直接入る前に、少し復習が必要です。第二の天使のメッセージは、主にバビロンの崩壊を指し示しています。

また、別の天使が続いて来て、こう言った。「大いなる都バビロンは倒れた、倒れた。彼女はその不品行による怒りのぶどう酒を、すべての国々の民に飲ませたからである。」黙示録 14:8。

第二の御使いは、バビロンの陥落を、彼女が「自分の淫行の怒りのぶどう酒をもって、すべての国民に飲ませた」こととして定義している。彼女の陥落は、彼女があらゆる国々と姦淫を犯したことへの結果である。その姦淫は、「ぶどう酒」として表される彼女の偽りの教義によってもたらされる。カトリック教会は多くの偽りの教義から成り立っているが、彼女の陥落と直接結びついている偽りの教義、すなわち彼女の「怒り」を生み出す教義は、教会と国家の結合であり、その関係を教会が支配するというものである。カトリック教会の怒りとは、彼女が異端と見なす者たちへの迫害である。彼女の怒りは、地の王たちとの姦淫によって実行される。地の王たちとの結びつきと、彼らに対する支配がなければ、彼女は自らが異端と定義する者たちを迫害する力を持ちえない。したがって、彼女の第二の陥落は、地の王たちとの姦淫によってもたらされ、過去にしたように再び彼女がその怒りを行使できるようになる将来の時点を指し示しているということである。地の王たちは、彼女の偽りを飲むことによって、その不法な関係に入る。バビロンの陥落は、最終的には黙示録第十八章で告知知らされる。

これらのことの後、私は、天から下ってくるもう一人の天使を見た。彼は大いなる権威を帯びており、その栄光によって地は照らされた。彼は力強い大声で叫んだ。「大いなるバビロンは倒れた、倒れた。彼女は悪霊たちの住まいとなり、あらゆる汚れた霊の巣窟、あらゆる汚れた憎むべき鳥の檻となった。諸国の民はみな、彼女の淫行の怒りのぶどう酒を飲み、地の王たちは彼女と淫行を行い、地の商人たちは彼女のぜいたくの豊かさによって富を得た。」そして私は天から別の声を聞いた。「わたしの民よ、彼女から出よ。彼女の罪にあずかることのないように、また、その災いを受けないように。彼女の罪は天にまで達し、神は彼女の不義を覚えておられる。彼女があなたがたにしたとおりに、彼女に報いよ。彼女の行いに応じて、彼女には二倍に報いよ。彼女が満たしたその杯に、彼女のために二倍を満たせ。」ヨハネの黙示録 18:1-6

カトリック教会の試練の杯は1798年に終わったが、同教会は、まもなく到来する日曜法の危機のさなかに、中世の暗黒時代に行った迫害を繰り返すことになる。

しかし、あなたに非難すべきことがいくつかある。それは、自らを女預言者と称するあの女イゼベルを容認し、彼女が教え、わたしのしもべたちを惑わして淫行を行わせ、また偶像に供えたものを食べるようにさせているからである。わたしは彼女にその淫行を悔い改める猶予を与えたが、彼女は悔い改めなかった。見よ、わたしは彼女を床に投げ込み、また彼女と姦淫を行う者たちを、その行いを悔い改めないなら、大きな患難の中に投げ込む。黙示録 2:20-22。

彼女には悔い改めるための千二百六十年が与えられたが、彼女は拒んだ。カルメル山に至る三年半の干ばつは、イゼベルに悔い改めのために与えられたが、彼女もまた拒んだ。やがてアメリカ合衆国で制定される日曜法において、終わりの日に彼女と姦淫する地の王たちの最初の者は、黙示録十三章の地から上る獣であるアメリカ合衆国である。そのとき、アメリカ合衆国はその猶予期間の杯を満たすことになる。

地上で最も偉大で、最も恵まれている国はアメリカ合衆国である。慈愛深い摂理がこの国を守り、天の最上の祝福をこの国に注いできた。ここでは、迫害され虐げられた者たちが避け所を見いだしてきた。ここでは、純粋な姿のキリスト教信仰が教えられてきた。この民は大いなる光と比類のない慈しみを受けてきた。しかし、これらの賜物に対しては、恩知らずと神を忘れることで応えてきた。無限なる方は諸国民に対して帳簿をつけておられ、彼らの罪責は、彼らが拒んだ光の大きさに比例する。いま天の帳簿には、我が国に不利な恐るべき記録が記されている。しかし、この国の不義の分量を満たすことになる罪は、神の律法を空しくすることである。

「真理と誤りの間の論争における最後の大きい衝突は、人間の法とエホバの戒めとの間で起こるだろう。私たちは今、この戦いに入りつつある—それは、覇権を争う諸教会同士の戦いではなく、聖書の宗教と、作り話と伝統の宗教との戦いである。この争いにおいて真理と正義に敵対して結集する諸勢力は、すでに活発に活動している。」  
『予言の霊』第4巻、398。

日曜法が施行されると、獣の刻印が強制され、こうして「神の律法を無効にする」ことになる。日曜法に先立って、アメリカ合衆国内で獣の像が形成される。日曜法はある時点で到来するが、獣の像の形成は一定の期間を要する。その期間とは、ダニエル書1章において捕囚の七十年として示されている、ダニエルの生涯により表された預言的期間である。その七十年はエホヤキムから始まり、2001年9月11日に第一のメッセージが力を与えられた時を象徴し、そしてキュロスの「勅令」によって表されているように、神の律法が無効にされることで終わった。

ダニエルの七十年にわたる預言的生涯の歴史は、いくつかの預言の系列を象徴している。それは、十四万四千人の封印の時を表している。それは、黙示録十四章の三天使に示されている三段階の試練の過程を表し、ヘブライ語の「真理」という語の構造をも表している。それは、契約の使者によって成し遂げられるレビの子らの清めを表している。それは、キリストが神殿を二度清めたことによっても表されている。それはまた、エゼキエル書八章と九章におけるエルサレム内部の漸進的な背教によっても表されている。さらにそれは、アメリカ合衆国で獣の像が形成される歴史も表している。

獣の像は、イゼベルのアハブとの姦淫、ヘロデのヘロディアとの姦淫、アロンの反逆の金の子牛、ベテルとダンに設けられたヤロブアムの二つの偽の礼拝の神殿、カルメル山の物語に登場するバアルの預言者とアシュタロテの預言者によっても象徴されている。エレン・ホワイトの著作における獣の像の唯一の定義は、教会と国家の結合であり、その関係を教会が支配している状態である。教会が国家を支配するというこの問題こそ、神聖な文書たるアメリカ合衆国憲法が防ごうと意図した事柄の核心である。間もなく到来する日曜法において地の獣が政教分離の原則を捨て去るとき、アメリカ合衆国における教会と国家の完全な連合が成就するだろう。

2001年9月11日から米国における日曜法に至るまで、預言を学ぶ者たちが獣の像の形成を認識することに基づく、目に見えるテストがある。私たちは今、その過程のまさに終わりに差し掛かっている。獣の像が形成される過程には、日曜法において（そこで獣の刻印が強制される）完全な発展に寄与する、いくつかの動きがある。政治的な動き、宗教的な動き、社会的な動き、そして金融的な動きがある。以下の一節で、獣の像の形成に関連して言及されている出来事に注目してください。

「すでに準備は進み、やがて獣の像を造ることになるような動きが進行している。地上の歴史において、この終わりの時代に関する預言を成就させる出来事が引き起こされるだろう」『セブンスデー・アドベンチスト聖書注解』第7巻、976頁。

獣の像の形成は、「出来事」と「運動」という、いずれも複数形のものを含む、進行していく準備を伴っている。ダニエルの七十年の捕囚が表す歴史は、エホヤキムに始まり、キュロスの勅令で終わった。イエスは物事の終わりをその始まりによって示しておられ、ダニエルの預言的な七十年が象徴する期間の始まりを表す「勅令」が存在する。その「勅令」とはUSAパトリオット法であり、第三の災いにおけるイスラムの攻撃を公に前提としていた。しかし、南北戦争におけるエイブラハム・リンカーンや第二次世界大戦におけるフランクリン・ルーズベルトの独裁的な大統領令とは異なり、パトリオット法はいまだに有効であり、世界的なイスラムとの敵対が増すにつれて、おそらくさらに補強・強化されるだろう。南北戦争と第二次世界大戦の大統領令は敵対行為の終結とともに終了したが、世界的なイスラムとの敵対に終わりはなく、むしろ世界各地でのテロ攻撃がエスカレートしていくだろう。

西洋文化には二つの主要な法思想がある。イギリス法とローマ法である。イギリス法の前提は、有罪が証明されるまでは人は無罪であるということであり、ローマ法の前提は、人は無実が証明されるまでは有罪であるということだ。USAパトリオット法はローマ法の典型例であり、イギリス法と真っ向から対立する。これは、獣の像の形成においてもたらされる「出来事」の一つである。もしアメリカ合衆国がカトリックの写しとなるのであれば、獣の刻印の強制に先立って、カトリックの宗教的・政治的思想がアメリカ合衆国に確立されている必要がある。

この主題が私の心に強く迫っている。よく考えなさい。これは非常に重要な事柄だからである。私たちは、この二つのうちどちらの側に利害を一致させるのか。私たちは今まさに選択をしており、やがて神に仕える者と神に仕えない者の違いがはっきり見分けられるようになるだろう。マラキ書第4章を読み、真剣に考えなさい。神の日はまさに目前に迫っている。世界は教会を改宗させてしまった。両者は歩調を合わせ、近視眼的

な方針で動いている。プロテスタントは、この国の支配者たちに働きかけ、神の宮に座して自分は神だと示している「罪の人」の失われた優勢を回復するための法律を制定させるだろう。ローマ・カトリックの原則は国家の庇護と保護のもとに置かれるようになる。この国家的背教には、速やかに国家的破滅が続くだろう。神の律法を生活の規範としていない者たちは、聖書の真理による抗議をもはや容認しなくなる。そのとき、殉教者たちの墓から声が聞こえるようになる。すなわち、神の言葉と自分たちの持っていたイエス・キリストの証しのゆえに殺されたとヨハネが見た魂たちに象徴される声である。そして、すべての真実な神の子から祈りが天に昇る。「主よ、今こそあなたが御業をなさる時です。彼らはあなたの律法を無にしました。」 General Conference Daily Bulletin, 1900年1月1日。

前の一節は、「ローマ・カトリックの原則が国家の監督と保護のもとに置かれる」のは日曜法においてであると示している。日曜法は、2001年9月11日に始まった象徴的期間の終わりである。初めの愛国者法は、終わりにおける日曜法の型である。獣の像を形成するために引き起こされる出来事のうち二つは、第三の災いの到来と、それに続く愛国者法であった。

獣の像の形成は、私たちの永遠の運命が決定される試練であり、それは日曜法に先立って起こる。日曜法るとき、セブンスデー・アドベンチストとしての私たちの恩恵期間は閉じ、そのとき目に見える印が押され、旗印が掲げられる。獣の像の形成は、日曜法の前に、目に見える印が押される前に、そして恩恵期間の終結の前に起こる。

主は、猶予期間が終わる前に獣の像が形成されることを、私にはっきりと示してください。というのも、それが神の民に対する大いなる試練となり、それによって彼らの永遠の運命が決定されるからである。あなたの立場は矛盾だらけの寄せ集めであり、欺かれる者はごくわずかだろう。

黙示録13章において、この主題は明確に示されている。[黙示録13章11-17節、引用]

これは、神の民が神の印を受ける前に必ず通らなければならない試練である。神の律法を守り、偽りの安息日を受け入れることを拒むことによって神への忠誠を証明したすべての者は、主なる神エホバの旗のもとに加わり、生ける神の印を受けるであろう。天からの真理を捨てて日曜安息日を受け入れる者は、獣の印を受けるであろう。『Manuscript Releases』第15巻、15。

獣の像の形成の期間は、ダニエルの七十年の捕囚によって象徴されていた。ダニエルはまず、神の食物だけを食べることを選ぶことで、神を恐れるかどうかの試験に合格した。ダニエルの最初の試験は食事に関する試験だった。ダニエルの第二の試験は、バビロンの食事ではなく神の食事を十日間食べるという試験期間の終わりに起こった視覚的な試験だった。その食事の成功はダニエルの身体的な外見に現れた。第二の試験は視覚的な試験である。第一の試験は食事に関する試験である。ダニエルは信仰を示して第一の試験に合格したが、第二の試験では、自分がバビロンの食事を食べた者たちよりも「よりふっくらし、色つやが良く」見えるかどうかを前もって見ることはできなかった。見た目は素晴らしいのにゴミのようなものを食べている人が常にいる一方で、健康改革に良心的に取り組んでいるのに歩く死体のように見える人もいる。

第二の試練期間の結末は「暗闇」に包まれていたにもかかわらず、第一の試練でダニエルが実践した自制心と信仰こそが、彼を第二の試練で支え、乗り越えさせた。1840年8月1日に小さな巻物を食べたミラー派は、その後、「真夜中の叫び」のメッセージを宣べ伝えることによって神をあがめ、そのメッセージは津波のように全土を席卷した。第二の試練は視覚的な試練であり、その前に文字通りの食事と霊的な食物に関する試練があり、その後、預言的な意味での試金石となる試験が続く。第二の試練は、第一の試練で告白された信仰を目に見える形で実証することを求める。

さて、信仰とは、望んでいる事柄の確信であり、見えない事柄の証拠である。これによって、昔の人々は良い証しを得た。ヘブライ人への手紙 11章1、2節。

ダニエル書第2章は視覚的な試験であり、最初の試験で選ばれた食事が試験の過程に積極的に適用される場合にのみ、成功裏に遂行される。

この幻は、なお定められた時のためであり、終わりにはそれは語り、偽ることはない。たとえ遅れるようでも、それを待て。必ず来る。遅れることはない。見よ、高ぶる者の魂は彼のうちに正しくない。しかし、義人はその信仰によって生きる。ハバクク 2:3, 4

第二の試練の結果は、第一の試練で告白された信仰が真の信仰であったかどうかを示すために、闇の中に残されている。

「ヨハネに与えられ、七つの雷のうちに表された特別な光は、第一・第二天使のメッセージのもとで起こる出来事の概略を描いたものであった。人々がこれらのことを知るのには最善ではなかった。というのも、彼らの信仰は必然的に試みられなければならなかったからである。神の定められた順序において、最も驚くべき進んだ真理が宣べ伝えられることになっていた。第一・第二天使のメッセージは宣べ伝えられるはずであったが、これらのメッセージがその定められた働きを果たすまでは、さらなる光は示されないはずであった。」

セブンスデー・アドベンチスト聖書注解、第7巻、971頁。

ダニエル書2章が像に基づいているのは、神の御旨にかなっている。というのも、それは獣の像の試練を表しているからである。2001年9月11日を預言の成就と認識した預言を学ぶ者たちは、象徴的に「隠された書」を食べた。彼らはその後、先駆者たちの1843年図表と1850年図表に示されているアドベンチズムの古き道へと導き戻された。その古き道は第一の天使の運動を明らかにしており、彼らはそれが第三の天使の運動を表していることを理解するよう導かれた。彼らが理解するよう導かれた尊い啓示のすべては、彼らが受け取った預言解釈の方法論の理解によってもたらされた。その方法論はウィリアム・ミラーの方法論によって典型づけられており、1840年8月11日に彼の時代における第一のメッセージが力を受けたときに確証された。

「1840年には、予言のもう一つの顕著な成就が広く関心を呼んだ。その二年前、再臨を宣べ伝える指導的な説教師の一人であったジョサイア・リッチが、『黙示録』9章の解説を発表し、オスマン帝国の没落を予告した。彼の計算によれば、『この勢力は……1840年8月11日に打ち倒される。そのとき、コンスタンティノープルにおけるオスマンの権勢は打ち砕かれると見込まれる。そしてこれは、私の考えでは、事実である

ことが判明するだろう』。」

まさに定められたその時に、トルコはその大使たちを通じてヨーロッパの連合列強の保護を受け入れ、こうして自らキリスト教諸国の支配下に身を置いた。この出来事は予言を正確に成就した。それが知られると、多くの人々がミラーとその協力者たちが採用した予言解釈の原則の正しさを確信し、再臨運動には驚くべき弾みがついた。学識と地位のある人々も、説教と彼の見解の出版の双方でミラーに加わり、1840年から1844年にかけてその働きは急速に拡大した。『大論争』334、335。

人々が2001年9月11日を予言の成就として受け入れたとき、彼らはまた、「Future for America によって採用された予言解釈の原則の正しさを確信した」。

天使は隠された書を携えて降り、食べようとする者たちに食べるよう命じた。ミラー派の歴史の小さな書、および私たちの現在の歴史の隠された書に内包された予言的論理は、獣の像の形成という試験を安全に乗り越えるために必要である。しかし、食べること、すなわち予言的方法論を同化した後には、学ぶ者は、それまでに食べたものの視覚的な確認をその後示さなければならない。その信仰の行為は、結果が「暗い」試験を切り抜けることによって示されなければならない。

第一の天使の歴史におけるウィリアム・ミラーの予言的規則と、第三の天使の歴史で確立された予言的鍵とが結び合わされることによって、予言を学ぶ者は、黙示録14章の三人の天使それぞれが、食べるべき小さな巻物に記されたメッセージを携えていたことを認識できる。彼らが小さな巻物を食べるために採用した方法論は、さらに、黙示録18章の天使が2001年9月11日に降りてきたとき、18章では直接言及されていないにもかかわらず、その手に食べるべき巻物を持っていたことを見て取らせる。

天使は手に一冊の書物を隠し持っていた。その予言的論理こそ、ダニエルがバビロンの食物を拒むことを選んだときに彼が示したものである。獣の像の形成を見抜くために必要なのも、その予言的論理である。というのも、獣の像を形成するにあたり「運動」や「出来事」が引き起こされると知らされてはいるが、同時に、日曜立法の運動が「暗闇」の中で進行していることも知らされているからである。暗闇の中で彼らの動きを見て取れるよう、私たちは霊的な「暗視ゴーグル」を備えていなければならない。なぜなら、それは像の形成であるが、その形成は「暗闇」の中で行われるからである。それは、2001年9月11日を第三の災いの到来の成就と認めたときに、予言を学ぶ者が受け入れた予言解釈の規則によってのみ、認識されるだろう。

神は、御自分の民が敵対と憤怒の暴風に対して立ち向かう備えができるように、終わりの日に起こることを啓示してこられた。目の前にある出来事について警告を受けた者たちは、やがて来る嵐をただ平然と待ち受け、「主は患難の日に忠実な者たちをかばってください」と自らを慰めて座しているべきではない。私たちは主を待つ者のおうであるべきで、手をこまねいた期待ではなく、揺るがない信仰をもって熱心に働くべきである。今は、取るに足りない事柄に心を奪われているときではない。人々が眠っている間に、サタンは主の民が憐れみも公正も受けられないよう、事を周到に画策している。日曜運動は今、闇の中で着々と進んでいる。指導者たちは真の争点を隠しており、この運動に加わる多くの人々も、底流がどこへ向かっているのか自分たち自身は見えていない。その主張は穏やかで見たところキリスト教的であるが、やがて語ると

きには竜の霊をあらわにするだろう。迫っている危険を回避するために、力の及ぶ限りのことをするのは私たちの義務である。私たちは人々の前に自分たちを正しく示して偏見を解くよう努めるべきである。私たちは真の争点を彼らの前に提示し、そうすることで良心の自由を制限する措置に対して最も効果的に抗議することができる。私たちは聖書を研究し、自分の信仰の理由を述べることができる者でなければならない。預言者は言う、「悪しき者は悪を行い、悪しき者のうち誰一人として悟らない。しかし賢い者は悟る。」 『証言』第5巻、452。

ダニエルは、それが「闇」の中で進行しているにもかかわらず、日曜立法の動きを見抜くことのできる「賢い者」を代表している。彼がそれをなし得るのは、視覚の試練に先立って、食物の試練に合格したからである。獣の像の形成という視覚の試練は、「闇」の中で行われる。

次の記事では、第二の天使のメッセージとしてダニエル書第2章の考察を始めます。

わたしは、彼らが知らなかった道を通して、目の見えない者たちを連れて行き、彼らが知らなかった道筋へと導く。わたしは彼らの前で暗闇を光に変え、曲がったところをまっすぐにする。これらのことをわたしは彼らのために行い、彼らを見捨てない。イザヤ書 42:16。